

留学報告書

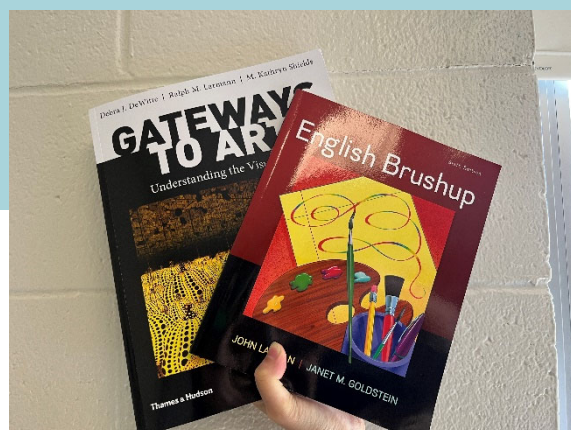
マーシャル大学2023年秋学期

学業について

学業面での留学の目的は、「英語教師を目指すうえで、力になる知識を吸収し、活かしたい。」であった。約4か月間を振り返ってみると、行く前と後では、海外の大学との教育に関する違いを肌で感じ、日本で活用できそうな部分を多く学ぶことが出来た。特に、5つ科目を履修していた中で、教育に関するChildren Literatureは英詩や絵本を教える方法や活動例を多数学んだ。これらは、アメリカの小学生向けではあるものの、英詩は特に日本の中学生、高校生でも教えることが出来る内容で、興味深かった。

また、全体的な一学期の流れを振り返ると、9月下旬から10月下旬にかけて中間テストがほぼ隔週続いた。中間はテスト期間が決められていないため、科目によって日にちがバラバラでとても長く感じられた。テストと同時に、スピーチの授業で約10分間のスピーチもあり、テスト勉強とスピーチの練習をする時間を両方作ることが難しく、結果的に練習時間を十分とることが出来ず数回つまってしまった。テストでは、初めてでどのように勉強を進めたらいいのか掴むのに試行錯誤したが、自分にやれることはやった上でテストに挑んだ。テスト形式としては、オンラインで受ける科目が多かったが、対面のものもあり、緊張したが何とかやり終えることが出来た。期末テストは、中間テストと同様の形式のものがほとんどだったが、中間テストで時間がなく余裕がなかった経験から、中間が終わった後すぐに、期末テストのことを考え、準備を始めるなど、調整しながら行動することで、心に多少の余裕を持って取り組めた。

どの授業の先生も親切な方が多く、気軽に質問が出来る方だったため、課題の確認をしたり、聞き取れなかったところを聞きに行ったりしながら一学期間楽しく学ぶことができ、分からないことは素直に認めて、恥ずかしがらずに友達や先生に聞く、というとても簡単なことで大切なことを身に染みて学んだ。



大学生活について



生活面、全体での目的として、「自分に自信を持ち、自ら行動や発言が出来るような人になりたい。」としていた。結果としては、以前の自分よりも自分の軸がよりしっかりしたように感じる。大学についたあと、精神的にも不安定だったため、知り合った子に遊びに誘われて、あまり行く気分でもなく、夜ということもあり今回は断った方がいいと思っているにもかかわらず、はっきり言いにくく、行くと言ってしまって、その後、やはりまだ生活に慣れていないし、夜だからやめようと思い断った。その他にも、はっきりと、自分は大丈夫、自分はそうしたい、という意志を伝えないとOKと捉えられてしまうこともあったため、途中からは、相手に配慮しつつ、自分の予定、体調に合わせて誘いを断っていた。自分が考えているよりも、アメリカの方は、断ったからと言って何も思うことはなく、自分がどうなのかを考えて、断ることに対してあまり抵抗を感じない方がいいなと身に染みて感じた。

イベントでも、参加するだけでなく、何か提供する側を経験したいと思い、International Festivalで日本のブース担当をやることにした。日本は、名前を漢字に当て字にすることにしたが、思っていたよりも本当に多くの方が来てくれて、自分が他のブースを回れないほどだった。しかし、とても喜んでくれ、自分の名前や顔を覚えてくれて、その後もキャンパス内で会うと挨拶するよっ友を増やすことができた。自分でやれるのかと思っていても、やりたいと思ったら経験してみたり、参加してみたりすることが本当に大切だと学んだ。

最初は分からないことだらけだったものの、授業が始まり、イベントにも参加し、たくさんの学生や先生と会話する中で、英語で意見を言うことに抵抗がなくなり、自分に自信をもって、行動することが出来るようになったと強く思う。



まとめ

全体の留学生生活を振り返ると、いい意味で時間がなく、とても充実した濃い期間だったと感じる。アメリカと日本、その他の留学生との異文化に触れつつ、その国に対するステレオタイプから接するのではなく、国の文化を尊重しつつ、一人一人と接することがとても楽しかった。考えや行動が考えられないと思っても、その人は、その環境や文化で育ったからその行動をしているんだと捉えることで、その違いに興味を持つことが出来た。先生方と生徒の距離や、大学生活での学生の様子、全てが異なるように感じたが、多様な人と話す中で、相手に気遣う気持ちは同じで、知らない人に対しても素直に相手を褒める姿勢は素敵だなと感じた。4か月間という有限な期間の中で、自分が学びたい、やりたいと思うことを多く経験することができ、友達もでき、充実したマーシャル大学での交換留学だった。

